

## 新たな東北圏広域地方計画策定に関する第5回有識者懇談会 議事要旨

日時：令和5年9月13日（水）

10:00～12:00

場所：東北地方整備局

水災害予報センター（WEB 併用）

### 出席委員

石井重成委員、小笠原敏記委員、鎌田真理子委員、舘田あゆみ委員、田中麻衣子委員、中出文平委員、三浦秀一委員、宮原育子委員、若菜千穂委員、渡辺理絵委員

### 1. 開会

### 2. あいさつ

### 3. 議事

- ①計画策定スケジュール及び目次構成・体系図（案）について
- ②新たな東北圏広域地方計画 東北圏の将来像について
- ③その他

### 4. 閉会

### 主な発言内容

#### 議事

事務局より議事について説明を行ったのち、計画策定スケジュール及び目次構成・体系図（案）や、東北圏の将来像に関する意見交換が行われた。各委員から出た意見は以下のとおり。

- ・本省の都合で前倒しを求められていることにはあまり納得がいかない。また、有識者懇談会の開催と素案の連携に気になるところがあるものの、有識者懇談会の発言をうまく取り入れることが望ましい。
- ・10月には、全国計画をどのように進めるかを議論する推進部会が始まる。そこでの議論の内容にも注意を向けることが望ましい。
- ・スケジュールが早期化したため、注意が必要である。
- ・体系図のうち災害に関する部分では、汚染水、処理水にも触れることが望ましい。
- ・有識者の意見をうまく盛り込んで作られている。

- ・スケジュールの要求が難しい面がある。
- ・スケジュールは前倒しになったとはいえ、時間をかけて策定に取り組んでいる。
- ・その間の社会の動きは、ものすごく目まぐるしい。その動きをどのようにキャッチアップするかが重要である。
- ・例えば、電気自動車は、電気のみならず地域をデジタルに変える大きいインパクトを持ち、想像以上のスピードで世界に広がっている。早い段階で計画に盛り込むことが必要な視点ではないか。
- ・スケジュールはやむを得ない。
- ・指摘事項はうまく反映されている。
- ・スケジュールは、国の事情もあるため、受け入れざるを得ない。
- ・全国の動きに倣えば倣うほど東北圏らしさが薄まるため、東北圏らしさをどのように出すか意識して進める必要がある。
- ・スケジュールについて承知した。
- ・参考資料は、有識者懇談会で出した内容を加味したキーワードとなっているが、もう少し具体的なワードを出す必要があると感じている。
- ・特に異論はない。
- ・この計画は誰に読んでもらう計画か。読んだ人にどのようになってほしいのか、1回目から、私の中でつかみ切れておらず、その視点はこれからも探求していきたい。8月に事務局と意見交換した際に出た内容が、私の中では印象的だった。国土形成計画は、いわゆる最上位計画だが、具体的な事業予算との紐づけが弱い。ある種の理念として掲げられているものの、ここに書いたから予算化されるわけではなく、各省庁、都道府県、自治体の具体の取組に紐づけて解釈することが難しい、と伺った。
- ・実際に、ある地方公共団体の方と話すとき、この計画をどのように見ているかという問いに対して、たまに照会が来るもの、という捉え方をしている職員がいる。
- ・これを踏まえると、本計画は具体の事業や個別のプロジェクトに介入できないながらも、全員で見ていきたい方向性や理念を、一歩先を見据えつつ謳っていくこと自体に価値がある。
- ・一方で、方向性や理念が現状と乖離しすぎると、納得感や上位計画との齟齬が出るため、絶妙な落としどころを模索することが我々の役割であると感じた。

#### (座長)

- ・スケジュールは前倒しになっているが、事務局の方にも頑張ってもらいながら進めるしかない。
- ・作成方針についても、皆さまから前回意見を頂いた部分を盛り込みながら枠を作っている。今回、この枠については、ほぼ異議はなかったため、引き続き肉付けを進められたい。
- ・国土形成計画や広域地方計画は誰のものか。東北でこのような計画を作っていることを知っているか、あるいは国土形成計画は、古くは戦後から策定が続けられ、時代時代の変化に応じた国土形成計画があり、という内容で、資料を示しながら大学の講義で扱ったが、約200名の学生のほ

とんどが計画を知らなかった。

- 国土形成計画や東北地方の計画がどのように若者に伝わっていくのか。今回は、少子高齢化が進み、次の担い手に対するメッセージに重きを置く半面、本当に実在としての次の世代の人に、どのように計画の中身や目指すべきところを伝えていくのか。そこにも注力しなければ、表や資料が出てくるだけで、予算やアクションもない、という状況に陥ることがとても残念である。
- 本懇談会の委員の平均年齢が 51 歳前後である。委員も含め、これから活躍する年齢層として、この計画を実効性のあるもの、東北の指針となるものとして位置付け、皆に知らせていくことが求められる。
- 今後本文に肉付けする際に、これらを踏まえながら本文を適切なものにすることが重要である。
- 本計画はビジョン計画のような位置づけと思いながら伺っていた。これを指標としながら、各都道府県や各地方公共団体が一つのよりどころとする考え方や目指す方向性が、本計画で示されるものと考えている。
- ALPS 処理水は、ポジティブに捉えると、最新の処理技術で世界にも貢献できるため、これを含めた書き込みを加えることが望ましい。
- 若者と女性というキーワードが用いられていたが、世界はエイジレスで動いており、高齢者の中にもかなり元気な方がいらっしゃる。そのため、高齢者も含めた世代、特に若者や女性の活躍、というように浮き立たせた形で若者や女性を扱う際のどこかに、エイジレスなベースの上に、というような表現を加えることが望ましい。
- キャッチコピーの案について、「東北から示す、新たな選択肢～人・自然・地域が織りなす自由な共生社会を目指して～」というようなニュアンスは、若い世代に印象を与えられると感じた。
- 東北圏は、最も人口減少や高齢化が進んでおり、最もチャレンジしにくい。そのため、東京とは異なる世界線で、自分たちらしさや自分たちの強みを生かしてチャレンジする、というメッセージをはっきりと伝えることが必要なのではないか。
- また、自由な共生社会を東北の地域で作れるか、ということは本質的な問いの一つである。
- 自由と不自由、共生と孤立の 2 軸で 4 象限に分けた時に、元々日本人は村社会に多くが住んでいた。村社会には色々なしがらみや人の目があり、それらの呪縛から解放されたい気持ちから、都市に人が出てきた。都市化や近代化が進み、共生していた社会が孤独化していった。
- デジタルを活用し都市と地域の垣根がなくなることにより、これまでの村社会のような、共生しているが閉塞感にまみれ不自由な地域から、共生の良い点はあるつつ、色々な人が自己実現や自由な意思決定を応援しあえる地域へと移り変わることが、デジタル田園都市国家構想を含めた国のこれからの取組の本質なのではないか。
- 以上のことを東北の地域から示し、自由な共生社会を目指すということを大きな理念と捉え、個別論点がぶら下がる、というあり方なのではないか。
- 資料 2「新たな東北圏広域地方計画（素案）・目次構成・体系図（案）」の 2 枚目以降、特に 3～6 枚目のそれぞれの主要な施策にどのような施策小項目をぶら下げるか、本来は有識者懇談会で議論してから素案を作るべきである。
- 内容が伴わない空疎なキャッチフレーズを作るよりは、体系図の枠組みを作り、それを元に計画

本文を練ることが望ましい。

- 例えば、処理水や処理技術の話を追加する場合、体系図にうまくはめ込み、重要なパーツを作るべきである。
  - 広域地方計画は、東北地方の全ての施策がこれに則って行われるべきものである。また、各都道府県、基礎自治体が、この広域地方計画に即して様々な計画を作ることが、広域地方計画の大事な役割である。
  - そのため、題目に加えて施策小項目でより細かな施策を示し、部門別計画でそれらを実行案にすることが重要である。
  - 広域地方計画では、強みをより強化し、弱みを解消することが必要だとすると、基本方針 4「誰もが自己実現でき地方の先導モデルとなるデジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成」は、強みと弱みを表裏一体で持っているの、どのように実現するかを検討が必要である。
  - 東北圏では人口が減少しつつあり、分散型居住が進んでいる。多数の小さな都市が、コンパクト・プラス・シームレスに地域を作っていこうとするところに、どのように強みを見つけてそれを強化していくのか、議論が必要である。
- 
- キャッチフレーズは、例えば「@」は世代によっては分かりにくく感じる方もいると考えられる。
  - 将来像（案）では「誰もが」という表現が多用されている。基本方針には「都市でも農山漁村でも」という表現が用いられており、どこでも、ということの意味した表現と考えられる。
  - 「東北圏」も、目指すべき姿で何度か出てくる。東北圏は範囲を示している一方で、「誰もが」は人と人の属性の違いを表す。住んでいる場所といった属性によらず、どこでも安心・安全な暮らしを送れ、サービスを受けられ、チャレンジが出来る、というようなニュアンスがあっても良いが、推進室の現行案では見えづらい。
- 
- 全国総合開発計画の時代は、国土を変えることが出来る、という夢を持ちえた時代だった。今日では、全国的な国土形成や東北圏をこのような視点で考えられる人が少なくなっている。
  - 新たな東北圏広域地方計画の位置付けは重要だが、一般の人には理解が難しいものとなっている。
  - そのため、キャッチフレーズでは、戦略等の大きなことを掲げることよりは、暮らしを出発点に考えるようなものが望ましい。そこから大きな社会や地域全体を考えられるようにしたい。
  - 電気自動車は、次世代自動車という書きぶりも考えられるが、動力が電気が変わる以上に、自動車がデジタル化し、ソフトウェアが重要になり、デジタル社会の中の要素として大きい位置を占めるようになる。
  - 太陽光発電も、普及が進んでいる。電気自動車を所持して太陽光発電を導入すれば、自給自足の生活を送ることが現実的になる。洋上風力まで話を膨らませると、エネルギーの自立の可能性がより高まる。
  - 東北地方が他の地方とは異なることとして、東京と隣接している他、他の地方とは比べ物にならない圧倒的な資源量を誇る。
  - 地域の中の循環を作りつつ、首都圏との大きな循環も作りつつ、といった視点を強調できないか。
  - 地域循環共生圏、ローカル SDGs という用語が存在するが、循環というキーワードがキャッチフレーズに入っていない。例えば、「地域生活圏」を「地域循環生活圏」など。
  - 合わせて、ローカルというキーワードを含め、地方の良さを表現することが考えられる。

- ・単なるキャッチコピーを議論するならば、本質的な意味は無い。他方で、計画の真意や本質的な問いを貫くコンセプトならば、議論することが極めて重要である。
  - ・私はキャッチコピーを後者の意味で捉えていたが、そもそも事務局としてキャッチコピーをどちらの意味で捉えるのか、という視点があっても良い。
  - ・この国土形成計画は非常に重要な計画だが、個別事業に対して予算を直接付けるものではないが故に、読み手に対してどのように使ってもらえるのかが見えにくいという点は、この懇談会の共通認識であると思う。
  - ・本計画で理念や方向性といったあるべき姿を示すことも1つの方法論だと思われる。
  - ・一方で、あくまでも各行政機関や自治体や関係者が、本計画に則って計画や事業や政策を作ってくれるような仕立てを目指すとする、別の方法論や制度論等、本計画のあり方そのものを再考することが必要である。
- 
- ・キャッチフレーズは、参考資料の①「自然と人のエネルギーが織りなす新時代へ～誰もが新たなチャレンジを楽しみ、生き生きと暮らせる東北～」が良い。キーワードが随所に含まれており、分かりやすいと感じた。全体を見ても、自然とエネルギー、デジタルといったキーワードが入っていると、シンプルで伝わりやすい。
  - ・一方で、副題は再考が望ましい。
  - ・資料3「新たな東北圏広域地方計画の概要」で、地域生活圏の形成が今回のポイントになると理解した。資料では絵が示されているものの、定住自立圏との違いが分かりにくいという印象も受ける。
  - ・コロナ禍を経て、オンラインやデジタルが普及したため、圏域論にこだわる必要性は低い。デジタルとリアルを融合させることと、地域生活圏は二律背反である。圏域にここまで言及する必要があるか、疑問を抱いている。
  - ・これまでの定住自立圏の違いとして、デジタルが入り、圏域を越えられることが挙げられる。
  - ・図では、田舎から都会へ向けた矢印しか描かれていない。しかし、これからは圏域の中にある色々なものを、どこに自分がいるかに関係なく享受でき、リアルを越えて繋がれることを表す、多くの線が描かれたような絵でないと、これまでの定住自立圏と大差がない。
  - ・私は、人混みが嫌いで東北圏に移住し、東北圏のように人口分布が適度に疎らな「適疎」が非常に良いと思っている。そのような部分をもう少し盛り込めると良い。
  - ・色々なサービスが無いことや、人が少ないことが良いということを、より前面に出せば良いと考えており、地域生活圏の書きぶりは見直すことが必要である。
  - ・基本方針4の(1)2.「多様な主体の協働による地域運営の実現」は、項目が7つと多く、内容にも意に沿っていない部分がある。
  - ・(1)2.6.「地域づくり評価制度の充実」は、削除することが望ましい。
  - ・(1)2.3.「地域づくりコンソーシアムの創出」と、(1)2.5.「地域づくりに関する交流と連携」は、同じ項目が良い。
  - ・(1)3.1.「共助社会を支えるコミュニティの活性化」という項目がある。現場では、団塊世代から次の世代に引き継ぐ際に、新しい自治会や町内会を作ろうとする動きがある。例えば、オンラインで町内会を開催したり、回覧板をLINEで代替することが挙げられる。新しいコミュニティ

- のあり方を項目として出すことが望ましい。
- あくまでも、共助を支えるためにコミュニティがあるのではない。
  - (2)2. 「地域生活圏を支える持続的なモビリティ社会の実現」では、(2)2.2. 「地域限定型の自動運転移動サービスの実現」の項目が細かいと感じる。自動運転だけでなく、空飛ぶクルマを含める等、幅のある書きぶりとするのが望ましい。
  - キャッチフレーズの位置付けは、どのようなものを考えているのか。広報活動で使うのか。冠としてただ付けるのか。
  - 冠として付けるなら、東北らしさを入れたキャッチフレーズとし、世の中で認知してもらうならば、認知されやすい短いキャッチフレーズとすることが考えられる。
  - 以前この懇談会では、中学生や高校生にもわかるような計画が良い、という議論があった。中学生や高校生にとっては、資料3「新たな東北圏広域地方計画の概要」が入口になる。
  - 概要版では、デジタルとリアルが融合した、と書いてあるが、図が分かりにくい。なぜこれがリアルなのか、デジタルなのか。デジタルとリアルが融合しているので、デジタル、リアルを分けて示すことは果たして必要なのか。
  - 地域生活圏のポンチ絵も、近い、あるいは遠いことの距離感を入れても良い。
  - 東北圏の魅力・ポテンシャルとして、祭を固有名詞で出している。実際には東北各地で祭が行われているので、ぼんやりと示すことが望ましい。固有名詞を出すと、他の県に関係が無いような印象を受ける。
  - 東北6県の中にある矢印も、岩手県から出ているように見えるため、工夫が必要である。
  - 国土形成計画の位置付けは、前回の会議で事務局から伺ったものの、改めて認識が必要である。
  - 本計画を誰に見てもらうのか。私もコンテンツを作る際には、誰に向けて態度変容や行動変容を促すのかといった視点で考える。本計画でも、誰にどのようになってもらいたいのか、はっきりと分からない。
  - 本計画には、主にWhat、すなわちすることが書かれている。本計画を一住民や行政が見ることを想定した場合、ゴールデンサイクル理論によれば、Why、How、Whatの順番で示すと意思決定や具体的な動きに繋がる。
  - 書いてあることに異論がある人は少ないと考えられる。
  - 東北人には、言語化せず暗黙の了解で済ませる人が多く、それが良くも悪くも東北人らしさである。一方で、同質性の固まりが、幸福度調査では、他者を受け入れないという結果に出て、東北圏がUターンを受け入れない、という見方にもつながる。
  - Whatをどのように実現するのかを示すHowが重要である。過去の慣習に捉われないことや、自分が当たり前と思っている物事の前提を覆すよう、違う価値観の人と話す対話が重要である。
  - キャッチコピーの絵については、計画を誰向けに作り、誰が読むのかが重要である。本計画は、東北が抱えている課題を変えていかなければ危機的な状況に陥る、という構成のため、変えていく主体となる人が計画を参照することを考えると、分かりやすさや、それぞれの政策を通した意気込みや方向性が表されていると良い。
  - 「開かれた東北」のようなキーワードを入れることが望ましい。

- ・東北は閉じたイメージを持つが、これからは優秀な外国の方とテクノロジーや自然の魅力で繋が  
り、共に東北の良さを味わうことが必要である。
- ・空港や港湾の整備も、このキーワードに繋がる。
- ・東北大学をはじめ、先端技術をリードしていく教育機関は数多くある。これらのテクノロジーと  
自然を合わせた観光や移住が示されると良い。
- ・デジタルとリアル融合に係る部分は、見直しが必要である。既にデジタルはリアルからかけ離  
れた存在ではなく、例えば、ドローンがデジタルに分類されていることは実情に即していない。  
今の生活がこのように変化する、というような感覚で記載すれば良い。
- ・東北圏の計画とはいえ、地図に周辺地域や海外との繋がりを示す矢印を入れると良い。

#### (座長)

- ・今日いただいたご意見から、大きく2点が挙げられる。
- ・1つ目は、基本計画をもう少し精査すべきではないかという点である。最上位計画という計画自  
体の本質を鑑みたとき、他の委員から、下位の計画を見渡していく基本計画のメニューを重要視  
することが必要との意見を頂いた。また、他の委員から、基本計画のメニューのうちいくつかは  
統合した方が良い、という意見を頂いた。他の部分についても、ぶら下がっている項目の分野の  
整理や新しいものの付け加えを改めて実施することが必要と考えた。
- ・2つ目として、他の委員から自身のキャッチコピーの提案を頂いたが、計画を誰が受け取るかを  
踏まえ、計画の全体像を示すコンセプトや理念、メッセージを打ち出すことが重要である。
- ・若い人たちがこのようなことに関心を抱いたり触れたりする機会は少なくなってきた。
- ・大学生を相手に、人口減少が進む東北圏の話を取った。人口減少が進んでいる状況は多くが知っ  
ており、秋田県が最も深刻な状況ということも、秋田県出身の学生はよく分かっている。
- ・しかし、この状況に対して何をすれば良いか問いかけたところ、自分ではなく誰かが解決すれば  
良い、というように自分ごととして物事を捉えていない発言もみられた。
- ・本計画の本質ではないが、今の若い人のマインドをどのように調整するかも重要である。計画が  
絵にかいた餅になると勿体ない。

#### (事務局)

- ・今後本文を作成する段階で、施策小項目や、そこにぶら下がる事業に多少の修正が加わることを  
想定している。

#### (座長)

- ・次回の懇談会では、本文を元に、施策小項目やそこにぶら下がる事業について議論することと理  
解した。
- ・資料の見せ方、考え方を工夫して、事務局で取りまとめいただきたい。

#### (座長)

- ・広域地方計画の中身が具体化しており、整理が望ましい文言や、抜け落ちてしまう恐れのある文  
言があると考えられる。
- ・冒頭に他の委員から、社会がもの凄いスピードで変化しているとの発言があった。その社会を東

北としてどのように捉えるかが重要である。

- 他の委員からは、What だけでなく How を、すなわち、何をどのように、という部分を示せるように議論することが重要だとの発言があった。
- 事務局との打合せや、次回懇談会で、委員の皆様から議論を頂きながら、東北圏らしい広域地方計画の策定を進めていきたい。

以上